

# WHO news February 2022

2022年2月2日

## [New global report on maintaining services for maternal, newborn, child and adolescent health and older people during the COVID-19 pandemic: lessons learned from 19 countries](#)

Since May 2020, WHO has supported 19 countries to raise the profile of and commitment to maternal, newborn, child and adolescent health and ageing (MNCAAH) through an Initiative on mitigating the indirect impacts of COVID-19 on MNCAAH services. The goal was to ensure that during the response to COVID-19, actions would be taken to mitigate indirect effects on MNCAAH due to disruptions to service provision and use.

A recently [published report](#) covers findings from Phase I of the Initiative, from May 2020 to February 2021. Section A of the report presents a synthesis of information across the 19 countries, including key mitigation strategies and lessons learned. Section B includes more detailed individual country information, drawn directly from country TWG and national consultant reports, country health information management system (HMIS) data, research publications and surveys that describe the impact of COVID-19 on MNCAAH services.

### **パンデミック時の母子・新生児・思春期・高齢者向けサービス：19カ国から得られた教訓**

2020年5月以降、WHOは母子・新生児・児童・思春期の健康と高齢化(MNCAAH)に対するサービスに、COVID-19が及ぼす間接的な影響を緩和する活動を通じて、その認知度と取り組み度を高めるための支援を19カ国に対して行ってきました。

このほど発行された報告書は、2020年5月から2021年2月までの取り組みのフェーズIの調査結果を掲載しています。セクションAでは、主要な緩和策や得られた教訓など、19カ国からの情報がまとめられています。

(注) MNCAAH : maternal, newborn, child and adolescent health and ageing

---

2022年2月2日

## [Tonnes of COVID-19 health care waste expose urgent need to improve waste management systems](#)

Tens of thousands of tonnes of extra medical waste from the response to the COVID-19 pandemic has put tremendous strain on health care waste management systems around the world, threatening human and environmental health and exposing a dire need to improve waste management practices, according to a new WHO report.

## COVID-19 対応で膨大な医療廃棄物：管理システムの改善が急務

WHO は COVID-19 パンデミックへの対応で生じた数万トンの医療廃棄物が、医療廃棄物管理システムに多大な負担をかけ、人と環境の健康を脅かしているとして、廃棄物管理方法の改善が急務であることを明らかにしました。

この推計は 2020 年 3 月から 2021 年 11 月の間に調達され、国連の共同緊急イニシアチブを通じて各国の緊急な COVID-19 対応を支援するために出荷された約 8 万 7000 トンの個人防護具 (PPE) に基づいて試算しています。1 億 4 千万個以上の検査キットが出荷され、2600 トンの非感染性廃棄物と 73 万 1 千リットルの化学廃棄物が発生する可能性があり、80 億回以上のワクチンが世界中で投与され、注射器、針、安全箱という形で付帯する 14 万 4 千トンの廃棄物が発生しています。これら廃棄物には、COVID-19 の商品として外部で調達されたものや、使い捨ての医療用マスクのように一般市民が排出する廃棄物は考慮されていません。

---

2022 年 2 月 2 日

### [Sleeping sickness: prioritizing case detection and treatment to achieve elimination as public health problem](#)

As cases of human African trypanosomiasis (also known as sleeping sickness) hit their lowest levels in 2020, countries are being asked to maintain their efforts to end what was once the cause of widespread misery.

Latest data show that only 663 human cases of sleeping sickness (gambiense form of the disease) were reported in 2020, as compared with 992 in 2019. Active surveillance for gambiense HAT was sustained and 2.8 million people were actively screened in 2019. In 2020, and mainly due to COVID-19 restrictions, 1.6 million were screened.

### 睡眠病：撲滅に向けて努力の継続を

睡眠病 (ガンビエンセ型) の症例は、2019 年の 992 件に対し、2020 年はわずか 663 件しか報告されていません。ガンビエンセ型 HAT (注) のアクティブサーベイランスは維持され、2019 年には 280 万人が積極的に検診を受けました。患者数が最低レベルに達したため、各国はかつて広範な不幸の原因であったものを終わらせる努力を維持するよう求められています。

2021 - 2030 年の顧みられない熱帯病 (NTD) ロードマップでは、ガンビエンセ HAT (アフリカ西部・中部で流行) の感染撲滅と、東部・南部で見られるロドシエンセ HAT の公衆衛生問題としての撲滅を目標としています。COVID-19 のパンデミックによって、HAT 撲滅のプロセスが予期せぬ事態に脅かされる可能性があります。これらの目標を達成するためには、各国の保健当局と国際社会の強い公約を維持することが不可欠です。

注) HAT ; ガンビア・トリパノソーマ (Trypanosoma brucei gambiense) によるヒト・アフリカ・トリパノソーマ症 (別名 : アフリカ睡眠病)

---

2022年2月3日

## [Crucial changes needed to protect workers' health while teleworking](#)

The World Health Organization and the International Labour Organization have called for measures to be put in place to protect workers' health while teleworking.

A new [technical brief to healthy and safe teleworking](#), published by the two UN agencies, outlines the health benefits and risks of teleworking and the changes needed to accommodate the shift towards different forms of remote work arrangements brought on by the COVID-19 pandemic and the digital transformation of work.

### WHO / ILO : テレワーク労働者の健康を守る

WHOとILOはテレワーク中の労働者の健康を保護するための対策を講じるよう呼びかけました。報告書によると、テレワークにはワークライフバランスの改善、柔軟な勤務時間や身体活動の機会、交通量の減少、通勤時間の短縮、大気汚染の減少などの利点が挙げられます。これらは身体的・精神的健康や社会的福利を向上させる可能性があると考えられています。また、テレワークは多くの企業にとって、生産性の向上と業務コストの削減につながります。

しかし、適切な計画や組織、安全衛生のサポートがなければ、テレワークが労働者の身体的・精神的健康や社会的な満足感に与える負の影響は大きくなると警鐘を鳴らしています。孤立、燃え尽き症候群、うつ病、家庭内暴力、筋骨格系やその他の怪我、眼精疲労、喫煙やアルコール摂取の増加、長時間座っての仕事やスクリーンタイム、不健康な体重増加などにつながる可能性があります。

この報告書は、テレワーク中の健康と安全を促進・保護するために、政府、雇用者、労働者、職場の保健サービスが果たすべき役割を概説しています。

---

2022年2月3日

## [New online course to fight the infodemic](#)

The new WHO online course dedicated to [Infodemic Management 101](#) is now available on the OpenWHO.org platform.

Thanks to [this online training](#), anyone can learn the basics of Infodemic management, anytime, from anywhere. A dozen of global experts explore the growing field of infodemic management activities and explain how to fight misinformation spread and to design human-centered interventions to empower individuals and communities.

### インフォデミックを学ぶオンラインコース

WHOの新しいオンラインコース「Infodemic Management 101」がOpenWHO.orgのプラットフォームで利用可能になりました。

この新しい入門コースは、インフォデミックとは何か、それが公衆衛生にどのような劇的な影響を及ぼすのか、そして現在から将来にわたって私たちに何ができるのかということに関心のある人々のために用意されました。

このコースは、インフォデミック・マネジメント、誤報、健康危機における事実確認、予防接種

理論、介入策の設計を取り上げた 5 つのモジュールからなり、自分のペースで学習を進めることができます。

また、受講者は以下のすぐに使える新しいスキルを開発し、実践することができます。

- 誤報の性質、起源、拡散の分析
- ネット上の写真・動画コンテンツの検証
- ソーシャルリスニングツールの使用

---

2022 年 2 月 7 日

## [Celebrating 70 years of GISRS \(the Global Influenza Surveillance and Response System\)](#)

Founded in 1952, the [Global Influenza Surveillance and Response System](#), or GISRS, is celebrating 70 years of success as a worldwide network founded to protect people from the threat of influenza, reviewing its added value to other respiratory virus threats including COVID-19, and setting its sights to the future.

### **インフルエンザ監視対応システム (GISRS) 70 周年**

1952 年に設立されたインフルエンザ監視対応システム (Global Influenza Surveillance and Response System : GISRS) は、インフルエンザの脅威から人々を守るために設立された世界的ネットワークとして 70 周年を迎えました。

毎年、季節性インフルエンザの患者数は 10 億人と推定されます。300 万から 500 万人が重症患者となり、インフルエンザに伴った呼吸器系の死者数は世界で 65 万人に上ります。インフルエンザウイルスの変異株は常に出現しており、COVID-19 の原因ウイルスである SARS-CoV-2 と同様に、急速に拡散していきます。これらはパンデミックを引き起こし、広範囲な社会の混乱と数百万人の死亡をもたらす可能性があります。

GISRS は 1952 年に 25 カ国の参加をもって設立されました。現在では 127 の国、地域にある 150 以上の研究所のネットワークとして運営されており、インフルエンザウイルスとその疾病を継続的に監視しています。毎年、数百万もの検体が検査され、数万ものウイルスとインフルエンザの動向が GISRS 内で共有されています。

---

2022 年 2 月 7 日

## [World Cancer Day: closing the care gap](#)

Cancer is one of the world's leading causes of death, and its burden is growing. In 2021, the world crossed a sobering new threshold – an estimated 20 million people were diagnosed with cancer, and 10 million died. These numbers will continue to rise in the decades ahead. And yet all cancers can be treated, and many can be prevented or cured.

Care for cancer, however, like so many other diseases, reflects the inequalities and inequities of our world. The clearest distinction is between high- and low-income countries, with comprehensive

treatment reportedly available in more than 90% of high-income countries but less than 15% of low-income countries.

### . Closing the care gap

For all of these reasons, the theme for this year's World Cancer Day is "closing the care gap".

## 世界対がんデー「がん医療のギャップを埋めよう」

2月4日は世界対がんデーです。

がんは世界の主要な死因の一つであり、その疾病負担は増大する一方です。2021年、世界は新たな段階に入りました。推定2000万人ががんと診断され、1000万人が死亡しました。この数字は、今後数十年にわたり上昇し続けるでしょう。しかし、すべてのがんは治療が可能であり、多くは予防や治癒が可能です。

しかし、がんに対するケアは、他の多くの病気と同様に、世界の不平等や不公平を反映しています。最も明確な違いは高所得国と低所得国の間にあり、高所得国の90%以上で必要な治療が可能です。低所得国では15%以下とされています。

WHOの最近の調査によると、がん医療を公的医療保険制度に含めるのは、高所得国の78%以上に対し、中低所得国では推定37%にとどまります。がんと診断されることは、人びとを貧困に追いやることに繋がり、ことに中低所得国ではパンデミックによっていっそう状況が悪化しています。

こうした理由から、今年の「世界がんデー」のテーマは「がん医療のギャップを埋める (closing the care gap)」ことです。WHOは、現在最も多いがんである乳がん、撲滅が可能な子宮頸がん、そして小児がんに焦点を当てた取り組みを行っています。その焦点は、公衆衛生上最大の成果を上げるべき低・中所得国です。

---

2022年2月8日

### [Commonwealth and WHO to strengthen cooperation on health, including access to vaccines](#)

The Commonwealth Secretariat and the World Health Organization (WHO) today signed a Memorandum of Understanding (MoU) committing to strengthening their collaboration on a broad range of public health issues of particular concern to Commonwealth member states and governments, such as the response to the COVID-19 pandemic, vaccine equity, advancing universal health coverage, and building resilient health systems.

## 英連邦とWHO：幅広い保健分野での協力関係を強化

英連邦事務局とWHOは、COVID-19パンデミックへの対応、ワクチンをめぐる公平性、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進、強靱な保健システムの構築など、幅広い公衆衛生問題についての協力を強化することを約束する覚書(MOU)に調印しました。英連邦事務局は、さまざまな政策分野やプログラムを通じて、加盟国や政府間の結束力を高め、支援する重要な役割を担っています。両者は以下の7つの優先分野に関して協力し、情報交換を強化することに合意しました。

- ユニバーサル・ヘルス・カバレッジとプライマリー・ヘルスケアの推進
- グローバルな健康安全保障の強化
- 健全な環境の促進
- 弱い立場にある人々の健康促進
- 健康に影響を与える生涯学習の変革
- データパートナーシップの構築
- イノベーションと知識交換の場を創出する

(注) 英連邦 (Commonwealth of Nations) は、カナダ、インド、フィジーなど嘗てのイギリス植民地から独立した主権国家を中心とした 54 カ国からなる経済同盟。英連邦の総人口は 25 億人で、そのうち 60 % 以上が 29 歳以下。英連邦事務局はこの同盟の主要な機関の一つ。

---

2022 年 2 月 8 日

## [Essential health services face continued disruption during COVID-19 pandemic](#)

Two years into the pandemic, health systems are still facing significant challenges in providing essential health services. Ongoing disruptions have been reported in over 90% of countries surveyed in the third round of WHO's Global pulse survey on continuity of essential health services during the COVID-19 pandemic.c, vaccine equity, advancing universal health coverage, and building resilient health systems.

### **パンデミックで必須医療サービスの混乱が続く**

パンデミックから 2 年が経過した現在も、保健システムは必要不可欠な保健サービスを提供する上で大きな課題に直面しています。WHO による調査の第 3 ラウンドでは、調査対象国の 90 % 以上で継続的な混乱が報告されています。

調査対象国の半数以上において、多くの人々がプライマリーケアや地域社会の医療が受けられないなどの状態が続いています。また、緊急医療においても大きな混乱が報告されており、特に緊急に医療を受ける必要がある人々への影響は懸念されるどころです。36 % の国が救急車サービス、32 % が 24 時間体制の救急病院サービス、23 % が緊急手術に支障があると報告しています。

59 % の国で予定手術が中断しており、パンデミックの継続に伴い、健康や福祉に累積的な影響を与えています。また、約半数の国でリハビリテーションや緩和ケアへの支障が報告されています。

医療サービスの回復を阻む主な障害としては、パンデミックによってさらに悪化した既存の医療システムの問題や、医療を受けようという意欲の減退が挙げられます。

[報告書「Third round of the global pulse survey on continuity of essential health services during the COVID-19 pandemic」](#)

---

2022年2月9日

## [Supporting health-care providers to make positive change: WHO launches new training tools on female genital mutilation prevention and care](#)

Two new tools are being launched by WHO and HRP to help health care providers give the best quality care to girls and women who have been subjected to female genital mutilation – and to also support global efforts to end this harmful practice and human rights violation.

These are: [Person-centred communication for female genital mutilation prevention: A facilitator's guide for training health-care providers](#) and [Integrating female genital mutilation content into nursing and midwifery curricula: a practical guide](#)

### **女性器切除の予防とケアのためのトレーニングツール**

WHO と HRP は、医療従事者が女性器切除を受けた少女や女性に最上のケアを提供できるように、また、この有害行為と人権侵害をなくすため、2つの新しいツールを発表しました。医療従事者は、身体的な傷を癒すだけでなく、女性器切除がもたらす身体的、精神的、性的健康への悪影響などに対するサポートを提供できるのです。また、新たな事例を防ぐために、自分の世話をする人々の態度に積極的な影響を与え、変えるという重要な役割を果たすことができるのです。

(1) 女性器切除予防のための人を中心としたコミュニケーション：医療従事者トレーニングのためのファシリテーターガイド

医療従事者が女性器切除に対する自分自身の価値観を検討し、この有害な行為を止めるための決断を依頼者に促す方法について、知識とスキルを身につけることを支援します。

(2) 女性器切除の内容を看護・助産カリキュラムに取り入れる：実践ガイド

助産師や看護師の研修カリキュラムに、女性器切除の予防方法や、健康や福祉に悪影響を受けた女性のケア方法に関する一貫した情報が欠けていることが明らかになっています。今回、実用的なガイドを発表しました。

---

2022年2月9日

## [21st century health challenges: can the essential public health functions make a difference?: discussion paper](#)

Countries worldwide are facing complex and diverse health challenges in 21st century, and usually there is one national health system for individual and population health outcomes. The COVID-19 pandemic and other emerging health challenges have exposed gaps and fragmentation in health systems with limited public health capacities and governance. In this context, “essential public health functions” (EPHFs) have been revitalized to support an integrated approach to sustainable health systems strengthening, complementary to primary health care, various programme-specific and health security approaches.

## 21 世紀の健康課題：公衆衛生の必須機能はギャップを埋めるか（ディスカッションペーパー）

21 世紀、世界各国は複雑で多様な健康課題に直面していますが、通常、個人や集団の健康に対する国の医療制度は一つです。COVID-19 パンデミックを含め、新たに発生してきた健康の課題に対して、これまでの保健医療システムは公衆衛生能力と統制・管理能力が不十分なため、統一的に対応できていないというギャップが生じています。

このような背景から、持続可能な保健システムの強化を支援するために、「必須公衆衛生機能」(essential public health functions : EPHFs) が再評価されています (WHO 世界保健総会決議 WHA69.1)。

公衆衛生能力の格差や、EPHF の強化を求める各国の声にもかかわらず、EPHF が保健システム強化について、明確な事例はまだないのが現状です。

このペーパーは、WHO のこれまでの実績を基に、EPHF の最新の知識と経験を統合したものです。その目的は、最新の概念と方法論に立脚して EPHFs の理解をさらに促進し、UHC、健康安全保障、健康な社会のために政策の選択肢を提示することです。

---

2022 年 2 月 9 日

### [Donors making a difference: keeping essential health services up and running](#)

Thanks to its contributors, WHO has been able to help countries fight COVID-19 while still maintaining other important health services.

War-torn Yemen has an active malaria prevention programme, children in Comoros are being vaccinated for measles and rubella, and emergency teams are on the ground in Tonga in the wake of a volcanic eruption and tsunami.

Bangladesh has welcomed a new contribution to build up its health system, and a project is under way to improve substance abuse treatment and prevention in Latin America and the Caribbean.

With WHO's support, countries are taking aim at cervical cancer, with new treatment services in Nigeria and a campaign in Ethiopia to vaccinate girls against human papillomavirus, the virus that causes almost all cases of cervical cancer.

Read on for details of these stories:

### 寄付という WHO への貢献：保健サービスの維持と運営

寄付は、重要な保健サービスを維持しながら COVID-19 と闘うために、WHO が各国を支援していることに貢献しています。

戦争で荒廃したイエメンではマラリア予防プログラムが活発に行われ、コモロの子どもたちは麻疹と風疹の予防接種を受け、トンガでは火山噴火と津波を受けて緊急チームが現地で活動しています。

バングラデシュでは、保健システム構築のための新たな貢献が受け入れられ、ラテンアメリカとカリブ海諸国では、薬物乱用の治療と予防を改善するプロジェクトが進行中です。

WHO の支援により、ナイジェリアでは新たな治療サービス、エチオピアでは子宮頸がんのほぼ



すべての原因となるヒトパピローマウイルスに対するワクチン接種活動など、各国が子宮頸がん  
に目を向けています。

---

2022年2月14日

## [Executive Board reviews progress in the implementation of the global road map on defeating meningitis by 2030](#)

During the 150th Executive Board (EB) of the WHO, agenda items on the Immunization Agenda 2030 (IA2030), Infection prevention and control and the Global road map on defeating meningitis by 2030 were grouped together for discussion. A total of 40 speakers, including 33 delegates from Member States (including regional statements from EMRO, AFRO and the EU), and 7 non-state actor organizations took the floor.

Twelve Member States from the six WHO regions made specific supportive statements on the Global road map on defeating meningitis by 2030 report (EB150/3).

### **髄膜炎の撲滅に向け進捗を確認**

第150回WHO執行理事会(EB)では、「予防接種アジェンダ2030(IA2030)」および「2030年までの髄膜炎撲滅に関する感染予防制御とグローバルロードマップ」に関する討議が行われました。WHOの6つの地域から12の加盟国の代表者が、グローバルロードマップ報告書(EB150/3)に対して具体的な支持を表明しました。

また加盟国は、予防接種や診断・治療を強化するためには、髄膜炎の予防と管理をプライマリーヘルスケアに組み込む必要性があるとしました。

---

2022年2月14日

## [Food marketing exposure and power and their associations with food-related attitudes, beliefs and behaviours: a narrative review](#)

This report presents the outcomes of a narrative review conducted to update an earlier descriptive review published by WHO in 2009 on the extent, nature and effects of food marketing. The current review was requested by the WHO Nutrition Guidance Expert Advisory Group (NUGAG) Subgroup on Policy Actions as part of the evidence reviews to inform its formulation of an updated WHO guideline on policies to protect children from the harmful impact of food marketing.

### **食品広告と不健康な食生活には関連がある**

本報告書は、2009年にWHOが発表した食品広告の範囲、性質、影響に関するレビューを更新したものです。

子どもが集まる場所や子どものテレビ番組・視聴時間帯を含め、食品広告は依然として広く行われています。食品広告は、不健康な食生活の原因となる食品(ファーストフード、砂糖入り飲

料、チョコレートやお菓子など)を主に宣伝し、若い視聴者にアピールしやすい戦略(有名人やスポーツ選手の推薦、宣伝キャラクター、ゲームなど)を用いています。

消費者調査の結果、食品広告の頻度や接触の程度と、広告された食品や健康的でない食品の習慣的な消費との間に正の相関があることが分かりました。

---

2022年2月14日

## [ACT-Accelerator calls for fair share-based financing of US\\$ 23 billion to end pandemic as global emergency in 2022](#)

World leaders launch campaign to meet the US\$ 16 billion ACT-Accelerator funding gap and US\$ 6.8 billion in-country delivery costs to take vital steps towards ending the pandemic as a global emergency in 2022.

### **パンデミックの不公平解消に 230 億米ドルの拠出が必要**

世界のリーダーたちは中低所得国に検査、治療、ワクチン、個人用保護具を提供している ACT アクセラレーター (Access to COVID-19 Tools (ACT) Accelerator) に資金を提供し、2022年にパンデミックを終息させる呼びかけを開始しました。

世界人口のかなりの割合がまだワクチン接種、検査、治療を受けることができないため、ACT アクセラレーターの活動に資金を提供するために、各国政府から 160 億米ドルの資金と配送費用 68 億米ドルが緊急に必要となっています。この投資により、COVID-19 対策に不可欠な手段を調達し、低・中所得国に提供することが可能になります。

COVID-19 検査は、全世界で 47 億回以上実施されていますが、低所得国では約 2,200 万件しか実施されておらず、世界全体の 0.4% に、また少なくとも 1 回のワクチン接種を受けた人は 10% に過ぎません。著しい不公平は、人命を奪うだけでなく、経済にも打撃を与え、より危険な新型の出現により、現在のワクチンの効果が失われる危険性があります。1 カ月遅れるごとに、世界経済は ACT アクセラレーターが必要とする投資のほぼ 4 倍を失うこととなります。

---

2022年2月14日

## [Vaccine Manufacturing Workshop for SEAR & WPR](#)

WHO Local Production and Assistance Unit (LPA) in close collaboration with WHO Regional Office for South-East Asia (SEARO) and WHO Regional Office for the Western Pacific (WPRO) with technical support from Coalition for Epidemic Preparedness Innovations (CEPI) is organizing the **Vaccine Manufacturing Workshop for South-East Asia (SEAR) & Western Pacific regions (WPR)** to address the needs on the development plans for a robust and sustainable vaccine local production capacity and environment in SEAR and WPR.

### **SEARO と WPRO : ワクチン現地生産ワークショップ開催**

COVID-19 パンデミックの教訓は、地理的に分散してワクチン生産を行うことの重要性です。WHO 東南アジア地域事務所 (SEARO) および WHO 西太平洋地域事務所 (WPRO) は感染症流行対策イノベーション連合 (注) の技術支援を得て、両地域におけるワクチン現地生産能力・環境整備のためのワクチン製造ワークショップ (SEAR) を、2月21日から22日にかけて開催します。

ワークショップへの参加は招待制です。SEAR および WPR のワクチン製造業者、ワクチン製造協会、規制当局、ワクチン製造に関連する政府関係者が招待されています。

(注) 感染症流行対策イノベーション連合 (Coalition for Epidemic Preparedness Innovations : CEPI)

---

2022年2月14日

## [Ensuring artificial intelligence \(AI\) technologies for health benefit older people](#)

Artificial intelligence (AI) technologies have the potential to improve older people's health and well-being, but only if ageism is eliminated from their design, implementation, and use. A new policy brief, [Ageism in artificial intelligence for health](#), released today by the World Health Organization (WHO) presents legal, non-legal and technical measures that can be used to minimize the risk of exacerbating or introducing ageism through these technologies.

### **人工知能 (AI) 技術と高齢者の利益**

人工知能 (AI) 技術は、健康のリスクや事象の予測、医薬品開発の実現、ケアマネジメントの個別化支援など、公衆衛生や高齢者医療を含む多くの分野で革命を起こしています。

しかし、AI 技術を放置すれば、社会に存在する年齢による差別 (エイジズム) を永続させ、高齢者が受ける医療や社会的ケアの質を損なう恐れがあることが懸念されています。例えば AI に使用するデータは、高齢者を代表していないとか、あるいは過去のものとなった年齢差別的な固定観念、偏見、差別によって歪んでいるかもしれません。また、高齢者がどのように生活し、日常生活でテクノロジーと接することを望んでいるかについて仮定を謝る可能性もあります。

WHO が発表した新しい政策概要「健康のための人工知能におけるエイジズム」は、AI 技術を通じてエイジズムを悪化させたり導入したりするリスクを最小限に抑えるために使用できる法的、非法的、技術的手段を紹介しています。

---

2022年2月14日

## [France and WHO sign new agreement to reinforce health systems to combat COVID-19](#)

The Government of France and WHO today announced a new €50 million contribution agreement that will help countries' health systems overcome bottlenecks in the COVID-19 response and

speed up equitable access to testing, treatments and vaccines.

## フランスと COVID-19 対策に向けた保健システム強化のための新協定に署名

フランス政府と WHO は、COVID-19 への対応における障害を克服し、検査、治療、ワクチンの公平な普及を加速するために、各国の保健システムを支援する 5000 万ユーロの新たな拠出協定を発表しました。

フランスのリヨンで開催された外務・保健担当閣僚会議の際に発表されたこの合意は、WHO の COVID-19 戦略的準備対応計画 SPRP (注) に沿った、WHO と ACT-A の保健システム・対応コネクタ HSRC (注) での作業を支援することを目的としています。

HSRC は、各国がワクチンやその他の COVID-19 ツールを入手し、効率的に使用するための技術的、運用的、財政的リソースを確保するために活動しています。

(注) 戦略的準備対応計画 (Strategic Preparedness and Response Plan : SPRP)

(注) ACT-A の保健システム・対応コネクタ (ACT-A's Health Systems & Response Connector : HSRC)

---

2022 年 2 月 14 日

## [WHO's new International Classification of Diseases \(ICD-11\) comes into effect](#)

The World Health Organization (WHO) Eleventh Revision of the International Classification of Diseases (ICD-11) has now come into effect, with the latest update going online today.

### 新しい国際疾病分類 (ICD-11) 発効

WHO の国際疾病分類第 11 版 (ICD-11) が発効し、本日 11 日より最新のアップデートがオンライン公開されました。

ICD は、医療従事者が世界中で標準化された情報を共有するための共通言語を提供するものです。ICD は、世界の健康動向や統計を把握するための基盤となっています。傷害、疾病、死因に関する約 17,000 の固有のコードと、12 万以上のコード化可能な用語を含みます。コードの組み合わせにより、現在 160 万以上の臨床状態をコード化することができます。

ICD-11 は、旧バージョンに比べ、完全にデジタル化され、ユーザーが使いやすいフォーマットと多言語機能により、エラー発生率を低減しています。

コーディングと機能の更新に加え、ICD-11 には伝統医学、性的健康、ゲーム障害に関する新しい章が追加され、依存性障害に関するセクションに加えられました。

ICD-11 は 2019 年 5 月の世界保健総会で採択され、加盟国は 2022 年に死亡率および罹患率の報告に使用を開始することに合意しました。2019 年以降、早期採用国、翻訳者、科学者グループがさらなる改良を推奨し、今回オンラインに掲載されたバージョンが作成されました。

---

2022年2月14日

## [South Africa's mRNA hub progress is foundation for self-reliance](#)

Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus, Director-General of the World Health Organization (WHO), Buti Manamela, Deputy Minister of Higher Education and Training of the Republic of South Africa, Dr Blade Nzimande, Minister of Higher Education, Science and Technology of South Africa, Dr Joe Phaahla, Minister of Health of South Africa and Meryame Kitir, Minister of Development Cooperation and Urban Policy of Belgium today visit a number of public and private sector partners that are collaborating to develop and build WHO's global mRNA vaccine technology transfer hub in South Africa.

### **アフリカ大陸自立のために mRNA ワクチン技術移転の構想**

2021年、世界のワクチン供給が限られていたため、COVID-19 ワクチンの供給と普及に大きな格差が生じ、特に低・中所得国の何十億もの人々が、COVID-19による重病や死亡に対して無防備な状態になっています。

この状況を好転させるため、南アフリカに WHO のグローバル mRNA ワクチン技術移転ハブを構築する構想が進められています。WHO mRNA グローバルハブは、南アフリカのみならずアフリカ大陸全体が公平なワクチン展開に不可欠な生産能力を確保するための重要なものです。

mRNA グローバルハブは、低・中所得国向けに設計されており、各国が独自の mRNA ワクチンを製造できるようにするだけでなく、最終的にはどのワクチンを製造するか選択できるようにするものです。中低所得国の製造業者は、トレーニングや技術移転、必要なライセンス供与を受けられるよう、自国の関心を示すことが求められます。WHO とパートナーは、製造ノウハウ、品質管理、必要なライセンスを単一の事業体に供与し、そこから複数の事業体に迅速な技術移転を促進する予定です。

---

2022年2月14日

## [Redefining sexual health for benefits throughout life](#)

**Sexual health is a state of physical, emotional, mental and social well-being related to sexuality; it is not merely the absence of disease, dysfunction or infirmity.**

**Sexual health requires a positive and respectful approach to sexuality and sexual relationships, as well as the possibility of having pleasurable and safe sexual experiences, free of coercion, discrimination and violence. For sexual health to be attained and maintained, the sexual rights of all persons must be respected, protected and fulfilled.**

### **生涯にわたる「性の健康」を再定義**

性の健康は、生殖年齢期に限らず、思春期から高齢期まで人の一生に関わるもので、固定された状態ではなく、すべての人のニーズはライフコース全体で変化します

それは、自分自身や他の個人、家族や友人、そして私たちの経験を形成している社会的・文化的規範を含む私たちの住む社会との関係と安全性によって決まります。これらの関係は、それ自体、

すべての人のセクシュアリティに関する人権が実現され、保護されているかどうかは左右されません。

性の健康とは、性に関連した身体的、感情的、精神的、社会的な幸福の状態であり、単に病気や機能障害、病弱がないことではありません。

大きな出来事としては、国際疾病分類（ICD）の新版で、初めて「性の健康」の章が設けられたことが挙げられます。確たるデータに基づく最新の定義を行うことで、WHO は性に関連するさまざまな症状に対する診断と適切な管理を促進します。各国は 2022 年 1 月からこの章の使用を開始しました。

---

2022 年 2 月 17 日

## [Suicide prevention in Bhutan: scaling-up during the pandemic](#)

Even before the COVID-19 pandemic, Bhutan, a country in South-East Asia, realized that suicide was becoming a serious public health issue. Despite being renowned for introducing the term “Gross National Happiness” in 1972, suicide is the sixth leading cause of death in Bhutan. Furthermore, for every four suicide deaths in the country, only one attempted suicide is recorded. This is an indication of significant under-reporting, given estimates that, globally, there are more than 20 suicide attempts for every suicide. In 2015, Bhutan’s Ministry of Health established a multi-year National Suicide Prevention Programme to address this significant public health issue. The country’s Suicide Prevention Action Plan (2018-2023) includes strategies to increase detection of suicidal ideation and respond to ideation and suicide attempts.

### **ブータンの自殺予防対策の取組み**

1972 年に「国民総幸福量」という言葉を導入したブータンでは、自殺が死因の 6 番目に挙げられています。さらに、自殺死亡者 4 人に対し、自殺未遂者は 1 人しか記録されていません。世界では、1 人の自殺に対して 20 人以上の自殺未遂があると推定されていることから、これは相当な過少報告であることを示しています。

パンデミック開始時、ブータンには精神衛生に関する人材がほとんどなく、開業精神科医が 2 人、訓練を受けた精神科看護師と臨床カウンセラーが数人いるだけでした。パンデミックによる精神衛生への影響とメンタルヘルスサービスの混乱を予測して、2020 年 3 月、保健省は WHO の指導を受けて全国の精神衛生と心理社会的ニーズに対応するための「全国 COVID-19 メンタルヘルス・心理社会対応チーム」を立ち上げました。対応チームは、ブータン全土の 2 万人以上の現場職員とコミュニティ・ボランティアに対して、自殺の危険因子の特定、苦境にある地域住民への基本的な心理社会的支援の提供方法、紹介の仕方に関する研修を実施しました。

ブータンで実施されたこれらの取り組みは、WHO の「各国の自殺予防のための LIVE LIFE 実施ガイド」に沿っています。

---

2022年2月17日

## [WHO collaborative registration procedure using stringent regulatory authorities' medicine evaluation: reliance in action?](#)

EMA and WHO have published a co-authored article on the evaluation of the WHO Collaborative Registration Procedure using Stringent Regulatory Authorities' medicines evaluations (SRA CRP), its achievements and impact in improving timely access to quality-assured medicines worldwide, where EMA acts as a Stringent Regulatory Authority.

The regulatory approval of medical products in countries with limited regulatory resources can be lengthy, which often compromises patients' timely access to much-needed medicines. The SRA CRP is a procedure that allows National Regulatory Authorities (NRAs) to leverage the work performed by Stringent Regulatory Authorities (SRAs) on scientific evaluations to decide on medical products approvals within their jurisdiction, through the use of the concept of reliance.

### **WHO : 中低所得国に向けた医薬品承認促進戦略と実績**

中低所得国 (LMICs) や資源に乏しい国における医薬品の登録は、人材や資金、技術力の不足、医薬品に関する薬事制度が成熟していないことが相まって、長期化することがあります。その結果、医薬品がタイムリーに患者に届かず、健康状態の悪化や生命予後の低下につながるのです。WHO や国際的な当局によって、医薬品の承認のための協調的な薬事戦略の開発が長年にわたって追求されてきました。

SRA CRP は、信頼性 (reliance) という概念を用いることにより、(低中所得国の) 規制当局 (NRA) が、厳格な薬事審査をおこなった (先進国の) 規制当局 (SRA) の科学的評価を活用して、医薬品承認することを可能にする手続きです。これには、(1) WHO が適格と認めた完成医薬品、(2) SRA が審査・承認した完成医薬品、(3) WHO が適格と認めた体外診断用医薬品に関する WHO CRP が含まれます。

2015年の設立から2021年7月までに、SRA CRPを通じて88件の製品申請が行われ、23カ国16品目の医薬品について59件の承認が得られています。

(注) CRP (Collaborative Registration Procedure) ; 医薬品のWHO共同登録 (承認) 手続き

(注) SRA (Stringent Regulatory Authority Collaborative Procedure) ; SRA 手続き

---

2022年2月17日

## [Treatment centre in a box and other new ideas](#)

A treatment centre that can be set up within hours, a kit to convert a regular vehicle into an ambulance, ultra-cold chain and solar energy technologies, and a basecamp for emergency responders. These are all ideas that could speed up emergency response and save lives.

To this end, the World Health Organization (WHO) and the United Nations World Food Programme (WFP) launched INITIATE<sup>2</sup> in 2021, to strengthen partnerships among emergency responders and humanitarian agencies and to develop innovative solutions that can be quickly deployed in health

emergencies..

## WHO と WFP : 迅速展開する感染治療センター

WHO と国連世界食糧計画 (WFP) は 2021 年に INITIATE2 を立ち上げ、緊急対応者と人道支援機関のパートナーシップを強化し、緊急事態に迅速に展開できる革新的な装備を開発することを目指してきました。

数時間で設置できる治療センター、普通自動車を救急車に改造するキット、超低温チェーンや太陽エネルギー技術、緊急対応スタッフのベースキャンプなどです。これらはすべて、緊急時の対応を迅速化し、人命を救う発想に基づいています。

このイニシアティブの下で展開される最初のプロジェクトは、迅速に配備可能な感染症治療センターです。このセンターでは、感染症発生のあるあらゆる段階を通じて、さまざまな疾患に対して質の高い治療ができるようになります。このイニシアティブは、イタリアのプリンディジにある国連人道対応センター (UNHRD) の既存のインフラを活用するもので、ここには専用の人道訓練センターと、革新的な緊急対応製品の開発・テストを行う UNHRD (国連人道支援物資備蓄庫) ラボが設置されています。

この治療センターは、ガーナ、ギニア、コートジボワールなどへ展開される予定です。

---

2022 年 2 月 22 日

### [WHO announces the development of new guidance on offering long acting injectable cabotegravir as HIV prevention for people at substantial risk for HIV infection](#)

WHO has made available the [membership](#) of the Guidelines Development Group (GDG) for the development of WHO " *Guidance on offering long acting injectable cabotegravir as HIV prevention for people at substantial risk for HIV infection.* "

### **HIV 感染リスクと長時間作用型注射剤カボテグラビルの予防的提供に関する新しいガイダンスの策定**

WHO は、WHO 「HIV 感染の高いリスクがある人々に対する HIV 予防としての長時間作用型注射剤カボテグラビルの提供に関するガイダンス」を開発するためのガイドライン開発グループ (GDG) のメンバーを公開しました。

このグループは、2022 年 3 月 9 日から 10 日にかけて仮想的に会合し、特に低・中所得国において、国、実施者、コミュニティの要請に応じて、長時間作用型注射用抗レトロウイルス予防薬の提供というこの新しい選択肢に関する証拠を適時に検討する予定です。

---

2022 年 2 月 22 日

### [A € 500 million pledge under the WHO – EIB partnership, with the support of the EU, for health systems in Africa](#)



WHO welcomed the new EIB commitments to support impact investing, in the context of a new tripartite initiative (WHO-EIB- European Commission), established to support countries across Africa to close the health funding gap, building resilient health systems based on a solid foundation of PHC, to help them reach health-related SDGs. The EIB President announced € 500 million made available with the aim of mobilizing € 1 billion of new investment to in this partnership supporting resilient health system strengthening based on PHC.

## WHO と EIB : アフリカの保健システム強化に 5 億ユーロ

EIB (欧州投資銀行) 総裁は、アフリカ諸国が健康関連の SDGs (持続可能な開発目標) を達成できるよう 10 億ユーロの新規投資を実行することを目的として、5 億ユーロを用意したことを発表しました。

WHO は PHC (プライマリヘルスケア) に基づく健康システムを構築することを支援するために設立された新しい三者イニシアティブ (WHO - EIB - 欧州委員会) の中で、アフリカ諸国への投資を支援するという EIB の決定を歓迎しました。

EIB は欧州連合の投資銀行です。2022 年初めに、EIB は、革新的な投資、持続可能な生活、気候変動対策、EU の近隣・拡大政策の支援等を展開する新しい組織である EIB Global を設立しました。EIB Global は、EU 域外での運用・投資を行う予定です。2020 年 5 月、EIB と WHO は、COVID-19 に最も脆弱な国々における公衆衛生強化、必須機器の供給、トレーニング、衛生投資のための協力を拡大する覚書を締結しています。

---

2022 年 2 月 22 日

## [WHO announces first technology recipients of mRNA vaccine hub with strong support from African and European partners](#)

*Egypt, Kenya, Nigeria, Senegal, South Africa and Tunisia to establish mRNA vaccine production*  
At the European Union - African Union summit in Brussels today WHO Director-General, Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus, announced the first six countries that will receive the technology needed to produce mRNA vaccines on the African continent. Egypt, Kenya, Nigeria, Senegal, South Africa and Tunisia all applied and have been selected as recipients.

## アフリカ 6 か国で mRNA ワクチン生産へ

ブリュッセルで開催された EU・アフリカ連合首脳会議において、WHO 事務局長は、アフリカ大陸で mRNA ワクチンの製造に必要な技術を受け取る最初の 6 か国を発表しました。エジプト、ケニア、ナイジェリア、セネガル、南アフリカ、チュニジアが申請し、技術導入の受け入れ国として選定されました。

グローバル mRNA 技術移転ハブ (注) は、中低所得国のメーカーが独自のワクチンを製造することを支援するために 2021 年に設立され、mRNA ワクチンを大規模かつ国際標準に従って製造するために必要なすべての操作手順とノウハウを確保することを目的としています。

(注) 関連ニュース : [アフリカ大陸自立のために mRNA ワクチン技術移転の構想](#)

---

2022年2月22日

## [WHO Guidelines for malaria](#)

The WHO Guidelines for malaria bring together the Organization's most up-to-date recommendations for malaria in one user-friendly and easy-to-navigate [online platform](#).

The WHO Guidelines for malaria supersedes 2 previous WHO publications: the Guidelines for the treatment of malaria, third edition and the Guidelines for malaria vector control.

Recommendations on malaria will continue to be reviewed and, where appropriate, updated based on the latest available evidence. Any updated recommendations will always display the date of the most recent revision in the MAGICapp platform. With each update, a new PDF version of the consolidated guidelines will also be available for download on the WHO website.

### **WHO ; マラリア推奨事項をガイドラインとして統合**

WHO マラリア・ガイドラインは、マラリアに関する WHO の最新の勧告を、使いやすく、閲覧しやすい形でオンライン上にまとめたものです。

WHO マラリア対策ガイドラインは、これまで WHO が発行してきた 2 つの出版物、マラリア治療ガイドライン第 3 版とマラリア媒介蚊対策ガイドラインに取って代わるものです。

マラリアに関する推奨事項・内容は、今後も継続的に見直され、必要に応じて最新のデータに基づいて更新される予定です。更新された項目には、常に最新の改訂日が MAGICapp プラットフォーム上に表示されます。更新のたびに、統合されたガイドラインの新しい PDF 版も WHO のウェブサイトからダウンロードできるようになる予定です。

ガイドラインの第 3 版は、マラリアワクチンに関する新しいセクションを含み、2021 年 2 月 16 日と 2021 年 7 月 13 日に発行された版に取って代わるものです。

---

2022年2月24日

## [Reflections on a dream job in sexual and reproductive health and rights](#)

In December 2021, Ian Askew stepped down as Director of the United Nations Special Programme HRP, and WHO's Department of Sexual and Reproductive Health and Research (SRH). Here, he reflects on almost 6 years at HRP, and a 40-year career in SRHR research.

### **性と生殖に関する健康と権利：夢ある仕事を振り返る**

2021 年 12 月、Ian Askew 氏は国連特別計画 (HRP)、WHO の性と生殖に関する健康・研究 (SRH) 部門のディレクターを退任しました。ここでは、彼は自身の 40 年間にわたる経歴を振り返り、また、次の 50 年に向けての期待を次のように述べています。

私は HRP の 50 年のうち、40 年を直接目撃することができたことを光栄に思っています。実際、私が最初に就いた仕事は 1980 年、月経のパターンと認識に関する HRP の多国間調査のアシスタントでした。

この調査は、HRP のアプローチと影響を示す典型的なものでした。このプロジェクトは、世界

人口の半分以上が経験しているにもかかわらず、研究対象となることがほとんどない、社会文化的・政治的に非常にセンシティブなテーマを扱ったものです。このプロジェクトには10カ国のチームが参加し、国別のメタアナリシスと比較メタアナリシスを実施しました。何千人もの女性から提供されたデータによって、月経に関するエビデンスが大幅に拡大し、状況に応じた新たな知識が生み出され、新しい避妊技術の開発やその提供方法について情報を提供することができたのです。

私がディレクターを務めていた頃の例としては、効果の高い3種類の避妊法は女性の間でHIV感染のリスクに有意差がないことを示したECHO試験や、産後出血の予防において熱安定性カルベトシンがオキシトシンと同等の安全性と効果があることを示したCHAMPION試験などがあります。

新型コロナに感染した女性と新生児の母体、妊娠、新生児の転帰を調査する現在進行中の研究は、HRPが世界的に重要な研究の計画、調整、実施支援を独自に行うことができることを示すものです。HRPの活動は、知識を向上させ、医療サービスやシステムを強化し、人々の命を救い、改善するものです。

(注) 性と生殖に関する健康と権利 (SRHR) : Sexual and Reproductive Health and Rights

(注) 国連特別研究プログラム (HRP) : Special Programme of Research, Development and Research Training

---

2022年2月24日

## [More than half of parents and pregnant women exposed to aggressive formula milk marketing – WHO, UNICEF](#)

New report details exploitative practices employed by \$55 billion formula industry, compromising child nutrition, violating international commitments.

### **粉ミルク製品のマーケティング攻勢にさらされる新米母親と妊婦 – WHO, UNICEF**

この報告書は、8カ国の親、妊婦、保健所職員へのインタビューをもとに、「粉ミルクのマーケティングは乳児への授乳にどのような影響を与えるか」について述べています。現在550億ドルという驚異的な規模を誇る粉ミルク産業界が、保護者の授乳の決定に影響力を持つため、組織的かつ非倫理的なマーケティング戦略を行っていることを明らかにしています。

報告書によると、業界のマーケティング手法は、野放し状態で、容赦なくオンラインによる購買層を狙っています。スポンサーがお膳立てしたアドバイスネットワークやヘルプライン、プロモーションや無料プレゼント、医療従事者のトレーニングなどに影響を与える行為などが含まれることがわかりました。保護者や医療従事者が受け取るメッセージは、往々にして誤解を招き、科学的根拠に乏しく、1981年に世界保健総会で可決された「母乳代用品マーケティング国際原則」に違反しています。

その結果、すべての国で多数の保健従事者が、販促用ギフト、無料サンプル、研究資金、有料の会議、イベント、会議、さらには販売手数料を通じて、新米母親への推奨に影響を与えるようベビーフード業界から接触され、親の授乳選択に直接的影響を与えています。

これらの課題に対処するため、WHO、ユニセフ、パートナーは、政府、保健師、ベビーフード業界に対し、搾取的な粉ミルクのマーケティングを中止し、「原則」の要件を完全に実施し、遵守するよう呼びかけています。

---

2022年2月24日

## [Global, regional, and national prevalence estimates of physical or sexual, or both, intimate partner violence against women in 2018](#)

The database comprises 366 eligible studies, capturing the responses of 2 million women. Data were obtained from 161 countries and areas, covering 90% of the global population of women and girls (15 years or older). Globally, 27% (uncertainty interval [UI] 23–31%) of ever-partnered women aged 15–49 years are estimated to have experienced physical or sexual, or both, intimate partner violence in their lifetime, with 13% (10–16%) experiencing it in the past year before they were surveyed. .

### **女性の 27 % がパートナーから暴力・性被害**

女性に対するパートナーからの暴力は、女性とその子どもたちの身体・精神の両面にわたる健康に短・長期的に多くの悪影響を及ぼす世界的な公衆衛生問題です。持続可能な開発目標 (SDGs) は、目標 5.2 でその撲滅を求めています。

世界的に見ると、15～49歳の結婚歴のある女性の27%が、生涯において身体的または性的、あるいはその両方の暴力をパートナーから受けており、13%が調査前の過去1年間にそのような被害を経験したと推定されます。最大に見積もると15～49歳の4億9,200万人の既婚女性が、15歳以降に少なくとも一度はパートナーからこの種の暴力を受けたことがあることとなります。また、世界では、殺された女性の38～50%がパートナーによって行われたものと推定されています。

政府、社会、地域社会は、女性に対する暴力を減らすために、COVID-19後の復興努力で取り組むことも含め、留意し、より多くの投資をし、緊急に行動する必要があります。

---

2022年2月24日

## [New WHO/ILO guide urges greater safeguards to protect health workers](#)

The World Health Organization (WHO) and The International Labour Organization (ILO) have published a new guide on developing and implementing stronger occupational health and safety programmes for health workers, as the COVID-19 pandemic continues to exert great pressure on them.

### **WHO / ILO : 医療従事者の安全衛生を強化するガイド**

WHO と ILO は、COVID-19 の大流行が医療従事者に極度の負担を与え続ける中、強力な労働安

全衛生プログラムを開発・実施するための新しいガイドを発表しました。

COVID-19 パンデミックは、医療従事者に一層の大きな犠牲を強い、その健康、安全、福祉が危険ほどに無視されてきました。パンデミックが発生してからの 18 カ月間で、11 万 5,500 人の保健医療従事者が COVID-19 で死亡しました。

WHO と ILO は、国、地方、医療施設の各レベルで、医療従事者の労働安全衛生を管理するためのプログラムを開発し、実施することを推奨しています。こうしたプログラムは、感染症、人間工学、物理・化学的、精神・社会的観点から、すべての職業上の災害をカバーする必要があります。

本ガイドはまた、保健医療従事者の健康、安全、福祉を促進、保護するために、政府、雇用者、労働者、産業保健サービスが果たすべき役割について概説しています。

---

2022 年 2 月 25 日

## [Moving forward on goal to boost local pharmaceutical production, WHO establishes global biomanufacturing training hub in Republic of Korea](#)

The World Health Organization (WHO), the Republic of Korea and the WHO Academy today announced the establishment of a global biomanufacturing training hub that will serve all low- and middle-income countries wishing to produce biologicals, such as vaccines, insulin, monoclonal antibodies and cancer treatments. The move comes after the successful establishment of a global mRNA vaccine technology transfer hub in South Africa..

### **WHO：韓国にバイオ医薬品製造トレーニングハブ設立**

WHO、韓国及び WHO アカデミーは、ワクチン、インスリン、モノクローナル抗体、がん治療薬などのバイオ医薬品の製造を希望するすべての低・中所得国のために、バイオ製造トレーニングハブを設立することを発表しました。この動きは、南アフリカで mRNA ワクチンのグローバル技術移転ハブの設立に成功したことを受けてのもです。

バングラデシュ、インドネシア、パキスタン、セルビア、ベトナムが技術移転ハブから mRNA の技術支援を受ける予定です。

韓国政府は、ソウル郊外にある大規模な施設を提供し、すでに国内に拠点を置く企業向けにバイオ製造トレーニングを実施していますが、今後は他国からの研修生を受け入れるために事業を拡大する予定です。この施設では、運用と GMP（適正製造規範）に関する技術・実地研修が行われ、南アフリカにある mRNA ワクチン技術移転ハブが開発した個別の研修を補完することになります。

---

2022 年 2 月 25 日

## [WHO and NAM encourage digital platforms to apply global principles for identifying credible sources of health information](#)

The World Health Organization (WHO) and the National Academy of Medicine (NAM) are encouraging social media companies and other digital platforms to apply [global principles](#) for identifying credible sources of health information in their channels. The principles, originally published in a [2021 NAM paper](#), were evaluated by an international group of public health experts convened by WHO and BMJ in December 2021. The [WHO meeting report](#) is now available for download.

## デジタル情報企業の責任：信頼できる情報源の原則順守へ

WHO と米国医学アカデミー (NAM) は、ソーシャルメディア企業やその他のデジタル情報企業などに対し、信頼できる健康情報源を特定するためのグローバル原則を適用するよう促しています。

COVID-19 のパンデミックが始まって以来、WHO はテクノロジー企業と協力し、信頼性のあるオンライン健康情報を普及させることで、人々の安全と情報提供を行ってきました。

人びとの安全と健康を守るために、すべてのデジタル情報企業が、公衆衛生を守るためのガイドライン、安全ポリシー、施行に、信頼できる健康情報源を特定するための新しいグローバル原則に則ることが奨励されています。

この原則では、信頼できる情報源は、科学的根拠に基づき、客観的で、透明性があり、説明責任を果たすことができるものとしています。

NAM と WHO は、2022 年 1 月に開催された、Amazon、Facebook、Google、Microsoft、TikTok、YouTube など 40 以上の主要テクノロジー企業の代表が参加する WHO の「Tech Task Force」の会合で、この原則を採用するよう要請しました。

---

2022 年 2 月 25 日

## [COVID-19 Research and Innovation - Powering the world's pandemic response – now and in the future](#)

This updated report once again brings a spotlight to the immense and tireless global research effort to control COVID-19.

The report not only details the successes but also the priority research tasks and lessons learned that are critical in the next phase of the pandemic - as the world strives to move to 'endemic' status. Crucially, focusing on how global research actions and platforms that are bolstering our response to COVID-19 right now, can also be deployed in the future to help the world rapidly combat new threats from viruses and other pathogens.

## COVID-19 研究とイノベーション – パンデミック対策の原動力 – 現在そして未来へ (報告書)

本報告書は以下のように述べて、COVID-19 対策に向けた膨大かつ不断の研究努力に再びスポットライトを当てます。

「世界中の科学者や専門家によるグローバルな連携と支援は、必ずしもメディアの見出しを飾るものではありません。各研究に参加された患者さん、ボランティア、ご家族の皆様にご心より感謝

申し上げます世界中の資金提供者とパートナーにも感謝します。最後に、この悲惨な病気で命を落とした何百万人もの人々、その愛する人たち、そして影響を受けたすべての地域社会に思いを馳せます」

本報告書では、成功例だけでなく、パンデミックの次の段階、すなわち世界が「エンデミック」の状態に移行するための優先的研究課題とこれまでに得られた教訓についても詳述しています。また、COVID-19 への対応を強化するグローバルな研究活動やその枠組みが、将来、ウイルスやその他の病原体による新たな脅威と迅速に戦うためにどのように展開されるかに焦点をあてていることも重要な点です。

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHO ニュースリリース、声明及びメディア向けノートの原文をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>